

〈解答〉

- ① 1 ア 2 ウ 3 (1) 自信 (2) 田んぼに

配点 ① 1、3(2)は各2点、他は各3点 10点満点

〈解説〉

①

1 「目をむく」とは「怒ったり、驚いたりして目を大きく開くこと」という意味の慣用句である。これと似た意味の慣用句は、ア「目を丸くする」である。イ「目を疑う」は「実際に見ても信じられないほど不思議に思うこと」、ウ「目を光らせる」は「注意して見張ること」、エ「目を遊ばせる」は「いろいろな所に視線を変えること」、オ「目を背ける」は「見ていられなくて、視線をそらすこと」という意味。

2 作業の大変さから、「ぼく」と雄成は手伝うと言ったことを後悔している。「ぼく」は腹の中で不平をたれたただだったが、雄成はあからさまにため息をつくなど不満そうな態度をとったため、奈々ににらまれたのである。

3 (1) 作業の途中で美代さんから、田植えがうまくいったのか聞かれた「ぼく」と雄成が、胸を張って「じょうずにできた」「きれいにそろえて植えられた」と答えていることから、ふたりが「自信」を持っていることが読み取れる。

(2) 田植えがうまくできている理由として、美代さんは、何も知らない「ぼく」たちのために、あぐり先生が「田んぼに、目印の線を引いていた」ことを挙げている。